

豊川用水の恩恵

～ ありがとう豊川用水 ～

○はじめに

東三河地域の生命線と言われている豊川用水は、通水から半世紀一日も絶やすことなく水を送り続け、この東三河地域に数知れない恩恵をもたらしてきました。

今回はそんな「**恩恵**」について、地域の方々の声を紹介させていただきます。

○田原市赤羽根町 Iさん（農業）

田原市赤羽根町で施設園芸（スプレー菊）を行っているIさんに、豊川用水について栽培現場で聞きました。

「豊川用水通水前の昭和38年頃に40坪のガラス温室で菊とメロン栽培を始めたが、その頃の用水は、井戸水を地域の土地改良区がポンプでくみ上げて送水し、温室内のため池にためておき、そこからじょうろに汲んで水をかけていた。豊川用水の通水後、山を開墾し施設が建てられるよう整地され、豊川用水も末端まで整備が進み、昭和50年頃から施設の数や規模が増え始めて、収益も増えてきて、昭和60年頃には8桁農業（1,000万円以上の売上げ）をみんなが目標としていた。

今ではこの地域の施設園芸は日本一であり、それは何でかという豊川用水のおかげだ。豊川用水は施設農家にとってはすごく大事で、豊川用水がなければこれだけの発展はない。」と豊川用水のありがたみを話していただきました。

また、ご家族のみで営農しているとのことで、なるべく手間が掛からないようにと、苗の定植、水やり、ハウス内の温度調整、選別・集荷作業を自動化するなど、さまざまな工夫を紹介していただきました。



定植後は上部に吊したパイプのチップから散水し、成長後は地面のパイプから点滴する。1部屋一気に水をかけるには、豊川用水が必要不可欠のことでした。



選別・集荷の機械



赤羽根の施設群

I様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

○蒲郡市 Iさん（兼業）

蒲郡市のIさんに、豊川用水に関するアンケートの回答を頂きました。

—豊川用水が通水50年を迎えますが、通水前と後で生活が変わったと思いますか—

通水前は消毒用の水を、畑に水槽を造ってそこに雨水をためて利用していたが、通水後は、豊川用水から直接利用することが出来るようになった。

また、施設営農（ビニールハウス等）が可能となった。

I様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

○豊橋市西七根町 高橋強さん（農業） 67才

豊橋市西七根町でネギ栽培を行っている高橋強さんに、豊川用水について栽培現場で聞きました。

「昭和20年10月私の父親がこの地に入植し、子供の頃は学校から帰れば、一輪車で土を運んで土羽打ちをしていた。昭和30年後半くらいにキャベツ、スイカを作るようになり、その頃は“しょんぼけ”という桶を担いで水場と畑を往復し、最後の一滴までひしゃくで畑に水をまいたもんです。」と通水前のお話を聞きました。

「私が就農した年に豊川用水の通水がはじまり、最初はスイカ、トマトなど作っていたが、将来的なことを考え35年前からネギ栽培を始め、最初は露地やトンネルで栽培していたが、安定供給のためにハウス栽培にしました。ハウスは6000坪ありますが、手で水をやっていたのではとてもこの規模は出来ませんし、周年で作付けしているので水は欠かせず、豊川用水がなければ何ともならない。本当にありがたいと思っています。」と感謝の言葉を頂きました。

また、豊橋市で農業を続けている高橋さんですが、「私の妻が鳳来町出身、息子の嫁が渥美出身で、私達の縁も（豊川用水のように）つながったということが誇らしい。」と豊川用水との縁についてもお話していただきました。

高橋様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。



後継者のため長く農業を続けられるように、一定の面積を休耕にして土を酷使しないようするなど、先のことを考えながら営農している高橋さん。



頭上かん水。上にあるノズルのついた管から、雨に近い状態で降り注ぐようにしている。

○田原市赤羽根町 杉原芳幸さん（農業） 48才

田原市赤羽根町の杉原さんに、豊川用水に関するアンケートの回答を頂きました。

ー豊川用水が通水50年を迎えますが、通水前と後で生活が変わったと思いますかー

自分が生まれた時には通水後でしたが、先輩の方々に聞いた話では限られた作物を適期適作で耕作しており雨の降らないときには大変苦労したと聞いています。

豊川用水の通水後には露地野菜では規模拡大も進み、施設園芸もその頃から普及し始め、日本有数の農業地帯となりました。年間を通じて多岐にわたる作物を栽培することが可能になったと思います。

ー今の生活の中で豊川用水との「つながり」を感じることはありますかー

他の産地に視察に行ったりすると、まだまだ豊川用水のように整備されたものは少ないと感じます。恵まれた環境で農業をしていることを再確認し、豊川用水の恩恵がいかによばらしいものなのかを感じるたびに、豊川用水とのつながりを感じます。

ー豊川用水通水50年を感じることはありますかー

これからも地域の生命線である水資源、豊川用水が、農業の要であることは変わりません。

杉原様、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。



杉原さんが菊を栽培する施設

○さいごに

平成29年6月に始めたこの「豊川用水50年のあゆみ」ですが、次回で最終号となります。

最終号では、これから50年、100年先の未来も水を送り続ける豊川用水について、お話しさせていただきます。